尤の疑ひである。君が株主である關係上、二、三の會社の總會に出席したが「此等の總會は恰かも政治に於ける議會に相當して、議會に於ける總理大臣に相當する會社の社長、又は專務取締役は開會の劈頭須らく會社の施設に關する自己の大方針を披瀝し、株主の諒解を求める筈であるにも不拘、事實は全然さるとがないのみならず反對に偶株主から質問があつても、成るべく之をして其質問を開陳せしむるの機會を與へず、努めて其眞相を隱蔽して、原案の通過と承認とを急ぐのは、或は彼等の胸中世間に對して、その承認の迅速であつたとを誇示せんとする愚にも付かぬ虛榮心の結果であるかも知れぬが、甚だ理由のないとであります」と云つて居られるが、私が何故に然るかを說明して見よう。

會議は討論を主とする。討論は理性の披瀝である。理性の披瀝であるから、生活上の過程を披瀝するのである、善惡の道德論ではなくして、利害得失の經濟論であり、生活論である。理性があるものが之を述べるから、決して脫線はしない、そして理性のあるものが之を聽いてるから、利害得失を商量しつゝ穩に之を聽いてるのである。日本人は俳句一つ作つて、それで萬事を象徵しようとするから、自分に理性から編み出し來れる縷々の意見がない。そして聽

く者も面倒で叫はず早く座席を離れたがる。高天原に神集ひし以來、絕えて會議したことなき人間が、俄かに西洋の制度を輸入しても、それが甘く行く譯はないではないか。

問題は制度にあらずして、人間に在り。

茅原先生の批評に答へます

著　者

私が先生の批評に關して頗る遺憾とすると共に怪訝に堪へぬとは、先生が何故に私の主張の根本である獨占權打破說と獨占權の內最大である土地の私有に代ふるに國有を以てせんとする說とに對して何等論及せらるゝ處なくして却つて其枝葉末節に關してのみ批評せられた乎の一點であります。素より私としては私の記述の何れの部分に對しても決して責任を免れんとするものではありませんが、而かも枝葉末節は結局に於て枝葉末節で私がそれ等の枝葉末節に論及したのは私の說の如き根本問題に關するものに對しては各種の方面から其枝葉の問題に就き疑問を挾まれる向がありますから、私は其等の一切の人々に對して私の獨占權打破が何れに適用するとして可ならざるなきを說明せんが爲めであります。從つて私の說明が枝葉末節に及べば

及ぶ程其說明の順序等に關して更に多くの異論を生ずるのは當然であります。之れ釋迦・キリスト及びマホメットの如き一宗の開始者に於て成るべく異論者を生ぜざらんが爲めに其所說を根本點に止めて其他の枝葉末節に關しては之を後の學者に任ぜられた所以であると同時に、其等の宗敎に於ては其開始者の所說を中心としながらも其枝葉末節に關しては幾多の分派を生じて居る所以であります。然るに私の所說は人間の感情を主とする宗敎的のものでなくして科學的のものであるのに加へて當今の時勢も亦之が細說と民衆化とを必要とする時代であるから、私は進んで其枝葉末節に論及して私の所說が現今一切の問題に關して總べて之を解決する所以のものであるとを明示したのであります。從つて異論があつたからと云うても私の根本點に就いては必ずしも影響はないのであります。それは政黨に於ける根本的重大味を有する點は其主義であり且政綱であるから此等の點に對しては黨員中些の異論があつてはならぬが、其他の政策に至つては何れの政黨に於ても黨員の自由意志を認容して敢へて之を迫らぬのと同一の關係にあるのであります。從つて苟も他人の所說を批評する程のものに在つては須らく其所說の根本點に對して云々した後に於て其枝葉末節に及ぶべきであると信じます。然るに先生程の御方

にして尙且其根本問題に及ばず單に枝葉末節に關してのみ論議せられたのみならず其枝葉末節に關しても單に先生の想像によつて抽象的批評を與へられたのみに止まるとは私に於て返す返すも遺憾とする處であります。

此機會に於て私が特に一言せねばならぬとは、先生は常に「經濟を外にして政治はない然るに我國人には嘗て經濟的生活と思想とがないから眞實の政治も亦無い」と云ふ意味のとを云はれて居りますが、此點は私も同感であります、而かも私が常に怪訝に堪へぬことは先生は如上「經濟を外にして政治はない」と云はれたのみで未だ嘗て其經濟とは如何なるものである乎に就き說明せられて居らぬとであります。蓋し政治は經濟であると云へば平等であらねばならぬ國民中にあつて獨占權が存在すべきでないと及び土地の私有は獨占權中の隨一であるから獨占權と共に土地の私有は眞先に打破せねばならぬ筈であります。斯くてこそ經濟は政治と一致するのであります。然るを先生にして之に論及せられぬのは狡にあらずんば空論と云ふ可く私に於て返す〳〵も遺憾とする處であります。而して先生が此回私の所說に對する批評に於て殊更に如上根本點を避けて枝葉末節に關してのみ論ぜられたのも亦先生が特に其等の問題に觸れるとと

を避けられた結果ではないかと存じます。

次に私の所説に對する先生の批評は、私の所説が（一）、理想主義のない唯物主義であるとせられた點、（二）、私が我の强いものであるとせらるゝ二點であります。以下之に答へます。

一、先生が私の所説を以て理想主義のない唯物主義であると云はれて居る其理想とは如何なる理想を指して云はるゝのである乎を知りませんが、私は人類の平等を以て理想とし且人間に於ける發達の極點は神に達するとである而して神は人間の心中に潛在して居る理性の發達した絶頂で要するに神なる特別なる存在はないものであると主張するものであるから、此れ以上の理想はない筈であります。

二、先生に於て私が我の强いものであると云はるゝのは何れの點を指して云はれたのである乎も亦不明でありますが、私が私の土地國有論の主張に關して熱心であるとは要するに其主張に忠實である結果であるから私は寧ろ其熱心を誇つて居るものであります。素より私は唯一の土地國有説を以て直に人間社會をユートピアとする事の不可能であるとは承知して居ります。人生は恰かも高山に登るが如きもので漸くにして其最初に於て絶頂と思うたものに攀ぢ

登つて見れば更に遙かの前方に他の絶頂があつて往けども往けども際限のないものであるとは、ルーテルが宗教改革に成就すれば世界は直に天國になると信じたとしても又はジョンブライトの徒が穀物條例の廢止に成功すれば社會は直に黄金時代となると考へたとしても其結果は二つ乍ら裏切られたと同一で、社會は一難去つて又一難が襲來して全く際限のないものであるとは私の百も承知して居る處であります。而かも其私に於て自己の主張に勇であるのは土地を國有にすれば少くとも現在の社會に於ける一切の問題は大略解決し得ると信ずるからであります。茲に至つて先生にして之に反對せらるゝのであれば須らく具體的に反對の事實及び理論を擧げて其然らざるを説破せらる可きであります。之を然らずして單に抽象的に或は私を目して「我の强いものである」と云はれ或は「土地國有論を以て日本の問題盡く解決すべしとなすが如きは君が思想の宣傳と云ふよりは寧ろ君の强い我の暴露と見られる惧れがある」と云はれたのは、私は先生こそが却つて我の强いお方で道理の教ふる所を無視せらるゝものではない乎と存じます。

最後に私が先生の所説として「我國人の先祖は南洋人が漂着したものである」と云うたの

に對してお顏を赤くせられた由でありますが、私は大移住と云ふも漂着と云ふも要するに私の本旨から見て枝葉の言葉咎めで私の主旨は我祖先が南洋人であると云ふ點にあるのであるから甚しき相違はないのであります。而かも此點に就ては私の先輩である元の大阪醫大教授北里闌氏も明白に主張せられて居るのでありますから左のみお顏を赤くせらるゝ必要はないと信じます。

次に先生は「秋守君のやうな思想の人は感情を否定するやうになる云々」と云はれて居りますが、私が感情を否定するのは「人間が發達の極致に達した場合は全然感情の支配を脫却して理智一遍となるものである」と云ふので、從つて之を現狀としては私共が之を好むと否とに不拘私共は怎うしても感情の支配を脫却するとは出來ぬものであるから一應は私共の感情を滿足せしめて私共の幸福を全うせねばならぬが、私は更に「私共の將來に對する準備として成るべく私共の思索及び動作を合理化する爲め私共に於て感情を滿足せしむる程度を最小限度に限らねばならぬ」と云ふものであります。（佛者及び古來聖賢の徒に於ける禁慾の教義は恐らくは此邊の思想から出發したものであるが、彼等の說明が不備であつたのに加へて後の學者が其因

つて來る所以の根據を察せず單に之を慚愧の生活の爲めであると誤解した結果延いて今日迄の如く天下後世を誤るに至つたものではない乎と信じます）。

更に之は此回の先生の批評中には形はれて居らぬとでありますが、此批評と同時に先生から私の留守宅に寄せられて居つた書信中に於て先生は私が嘗て先生に對して先生が漢詩を作らるとと漢字を書かるゝとに對して批難をしたのに對して不平を漏らして居られます。恐らくは之れが此回の批評中に於て先生が私に對して私が感情を否定するものであると斷定せられた動機となつたのではない乎と信じますが、果して然らば其れも亦見當違ひであります。蓋し私が先生に於て漢詩を作り且漢字を書かれるとに對して批難したのは、それは私に於て先生が平素はアリストクラシーを斥けてデモクラシーを主張せられ妙法を排して凡法を薦めらるゝのに不拘漢詩又は漢字の如き共にクラシカルにして現在の民衆に於て到底之を理解するとの出來ぬものを紙上に揭載して自慢せられるのは甚しき矛盾であると考へたからであります。

最後に以下のとは先生の私事に關するとではありますが先生に於て每々紙上に公表せられて居るとでありますから私は之を公表しても差支へないものと信じます。それは先生が凡法を主

張せらるゝに就てはそれが自然の歸着として先生の生活は東洋風よりは歐洲風否な北米風でなければならぬのに不拘先生は旅行の際成るべく旅館の宿泊を避けて好んで先生が同人と稱せらるゝ他人であると同時に素人である人の家に宿泊せらるゝことであります。私は單に私共の生活改善の上からのみ云ふも私共の生活を簡單にする爲め私共の親族間に在つてすらも相互の宿泊は旅館に於てするのが至當である特に先生の如きは平素の主張に見て半ばは公的關係に在る同人間に於ては成るべく情實關係の纏綿を避けるが爲め旅館の宿泊を擇ばる可きであると信じます。先生が本年初めに物故せられた元大阪の銀行家にして多數の預金者に迷惑を生じた某氏の家宅に往復せられた結果某氏の人格を禮讃せらるゝに至つた如きは其適例であります。此の如きは先生が一面には深刻なる哲學を有して私共を啓發せらるゝことが多いのに不拘他面には漢詩又は漢字を弄して感情の滿足を恣にせらるゝ結果に於ける矛盾であると信じます。

妄言多罪。

昭和四年二月十五日印刷
昭和四年二月二十日發行

爬羅剔抉

不許複製
定價 壹圓五拾錢

著者 秋守常太郎
發行兼印刷者 荒木利一郎 大阪府豐能郡箕面村平尾四九九
印刷所 株式會社 大阪毎日新聞社 大阪市北區堂島上二丁目三六
發行所 大阪毎日新聞社 大阪市堂島振替大阪四五〇
同 東京日日新聞社 東京九之內振替東京二八〇〇

秋守常太郎著

第二版

卒業生勞働論

定價金七拾錢
郵稅四錢

當今學校卒業者にして、或は就職難を嘆じつゝあるが如き、或は薄給にして一身一家を支持する能はず、甚しきは卒業後數年間を通じて、尙引續き父兄の保護を受けつゝあるが如き、或は銀行會社又官衙等に奉職して上役の一顰一笑に會して、青くなつたり赤くなつたりしつゝ大きな聲で話をすることをも爲し得ざるが如き、何んと云ふ氣の毒な次第であるか、著者は他人ながら一掬同情の涙を催さざるを得ないと云ふて居る。本書は如上憐む可く悲しむ可き事態に關して之れを救濟せんが爲め、著者自身の體驗に基き之れを說述したるものである。

發賣所　東京市牛込區天神町
東洋經濟新報社
振替口座（東京六五一八番　名古屋一〇三〇五番）

秋守常太郎著

第三版

土地國有論

定價金貳圓
送料金六錢

第二版

勞資問題解決

特價金壹圓
送料金四錢

現今主義者は資本が勞働を搾取しつゝあると云ふ。之れに對して著者は云ふ、假りに資本が勞働を搾取しつゝあるとして、其れは資本が强いからでなく、勞働が弱いからである。而して何が故に勞働が弱いかと云へば、其れは勞働者が衣食住に對する唯一の根源である土地を所有せず、從つて彼等が居住呼吸勞働其他の一切の生活に關して、土地を所有する者から土地を借用し、其借地料として地代を支拂はねばならぬのに加へて、其借地料が社會の發達と人口の增加とに伴ひ、年々其料率を增加して行くからである。從つて土地は之れを國有とし之れが私有を許さぬと同時に總べての人をして之れを共有せしめねばならぬものである。若し夫れ資本に至つては地代と勞銀との蓄積であるから、土地にして國有であれば、資本及び其利息は國家と働く人との外之れを所有する者はないのである。而して土地國有論は之れが原理を說明し、勞資問題解決は之れが應用を論じたものである。

發賣所　東京市牛込區天神町
東洋經濟新報社
振替口座（東京六五一八番　名古屋一〇三〇五番）

秋守常太郎著

特權打破と私の哲學

定價　金壹圓貳拾錢　郵稅　金六錢

由來人間は平等である。然るに古來其れが平等でなく各種の特權が存在して居つたから、歴史上幾多の混亂と共に革命が生じたのである。而して今日までの特權は主として政治上宗教上又は社會上の其れであつたが、現今社會の混雜と行詰りとは主として、經濟上の特權が存在してゐる結果、分配の不平均を來たし延いて貧富の懸隔を生じつゝあるのである。本書は其れ等經濟上の特權が何んである乎を論破し、兼ねて經濟的平等の社會を出現せんとする著者の血書である。

發賣所　東京市牛込區天神町
東洋經濟新報社
振替口座（東京六五一八番　名古屋一〇三〇五番）

秋守常太郎著

生産者團結論

定價　郵稅共金拾五錢
郵劵代用　差支なし

社會は、生産を行ひて自家の用に供した餘分を互に交換する人々の集團である。其等の人々にとり働くことは手段に過ぎずして目的は生産することに在るのである。この意味に於て「生産せざる者喰ふ可からず」と主張力説すべきであるにも拘らず、現今無産黨員および其關係者等は「働かざるものは喰ふ可からず」の言辭に囚はれ「働かざるもの即ち勞働せざるものなり」の思想を抱き、有力なる彼等の僚友となるべき、頭腦的に生産に從事しつゝある商工業者を目して、生産者に非らずして資本家なりとして排斥し、商工業者を驅つて眞正なる資本家と結合せしむるに至り、現今、無産政黨運動をして微力ならしむるの結果を招來して居る本書は其等の事由と關係とに關して反復詳述したものである。

發賣所　大阪市住吉區天王寺町苗代田二二七九
秋守常太郎
電話天王寺壹壹貳壹番

秋守常太郎著

嗚呼！勞働農民黨

（非賣品）

（希望者は一冊毎に郵税四錢送金せられたい、餘冊のある限り無代進呈す、發行所著者住宅）

本書は著者が經濟的特權打破の見地から各異つた五個の問題に關して記述したものを輯錄し、其内第一文の標題を其儘に本書の書名としたものである。而して其五個の論文は左の通りである。

第一章　嗚呼！勞働農民黨。
第二章　資本主義とは何んぞや。（山川均氏著無産者講話を讀む）
第三章　土地國有實行の方法。
第四章　再び人口の增加は多々益々喜ぶ可きことである。
第五章　私の告白。

以上は著者が渾身の精神を傾注して、現今謂ふ所の資本主義とは其實特權主義であること及び現今勞働側に於て資本家をして其資本を壟斷せしむる所以の特權を認容しながら、資本主義などと云ふて單に其結果である資本家を攻擊するのは、要するに弱い者苛めに過ぎぬと同時に、其原因を措いて其結果を矯めんとするもので、結局に於て無効であることを反復證明したものである。

602
31

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black